

2004年6月21日

白馬村長
福島信行殿

白馬村民フォーラム
代表 渡邊俊夫

提言書

去る6月21日、「スポーツと地域経済」をテーマに、第8回白馬村民フォーラムを開催しました。当日夜は台風の襲来と重なり、参加者は3名でした。

内閣府「体力・スポーツに関する調査統計」、内閣府「国民生活に関する世論調査」、厚生労働省「毎月勤労調査統計」、笹川スポーツ財団「スポーツライフに関する調査」、長野県商工部観光振興課「スキー・スケート場の利用者統計調査」、長野県教育委員会体育課、白馬村スポーツ事業課、総務課等の関係各機関より入手した資料に基づき、限られた時間での真剣な論議をいたしました。

議論の結果を下記のように提言として纏めましたので、ここにご報告申し上げます。

スポーツが、子供たちを、そして地域を育てる

次代を担う子供たちの健全な育成に、スポーツは欠くことのできない程の大きな役割を果たしている。子供から年寄りまで全てのここに住まう者に対して、この地域に相応しいスポーツ環境を整備する必要がある。白馬村は世界に誇る冬季オリンピックの開催地。冬季スポーツについては、類い希なる自然環境を活かして一般及び選手を問わず関係する全ての組織が密なる連携を図って振興していく必要がある。

脱スキーでなく、新たなスキースポーツの再生を

地域にとって「スキー場とは何か」を様々な視点から考え直す時を迎えている。村内に7つのスキー場ができたことが今日の白馬村の発展に大きく貢献してきたことは明らかな事実である。しかし、地域の経済を底辺から大きく支えてきたのは、かつて3万余のベットを誇った村内800の宿泊施設であったことも事実である。スキー場のあり方を含め、これらの宿泊施設を活かした滞在型の村づくりのために新たな指針の元でのスキースポーツの再生を模索する必要がある。

優れた資産の運用には、優れた人材が必要

白馬村は、スポーツ環境としての優れた資産を有している。しかし、その資産がどのように優れているのか明確に認識し、その運用に際して豊富な知識と共に、大きな意欲とほとばしるほどの情熱を持ってあたることのできる人材や組織を育てることこそ急がれる。宝の持ち腐れとならないために。